

平成 28 年度

事業者番号	284	事業所番号	028401
-------	-----	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社リテラ 秩父第一工場		
事業所所在地	市区町村	秩父市	
	字・地番	みどりが丘9番地	
産業分類名(中分類)	非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	主な製品:自動車用、建設機械用等のアルミ部品の製造加工 資本金:9千万円 全従業員数:254名(秩父第一工場199名)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間		27	年度	~	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	第2計画期間の基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	39,702	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	5,933	t-CO ₂			
				事業所区分	第2区分	

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間		32	年度	~	36	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上の削減を目指す。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	3,752				

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

 CO₂換算(t-CO₂)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂		8,009				
その他 ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		8,009				

 (3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO₂)

 CO₂換算(t-CO₂/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位				1.6388				
活動規模の指標	○	生産量	t/年	4,887				

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,127	t-CO ₂ /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	9,127	9,127	9,127	9,127	9,127	45,635	
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%		
	排出上限量 (C = ΣA-D)							39,702
	排出削減目標量 (D = Σ(A×B))							5,933
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	8,009					8,009	
	排出削減量 (F = A - E)	1,118					1,118	
特例	高効率設備の 算定量(※)							

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

 (6) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

- 平成27年8月にL6棟(1,563㎡)を建設したため、排出量が増加した。
- 平成27年6月に生産設備(ショット・ブラスト機)2台を増設したため、排出量が増加した。
- 平成27年5月に生産設備 機械加工ライン(NC旋盤4台他)を増設したため、排出量が増加した。
- 溶解炉の老朽化(熱源LPG)に伴い、放熱量が増加したため、LPG使用量が増加した。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量 (t) (一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	主に「電力使用量」「LPG使用量」の管理	H27年度	
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	溶解保持炉の熱源 (LPG) 管理によるエネルギーの効率化	H27年度	4
3	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	「コンプレッサー自動制御システム」監視運転による効率管理・・・工場全体の約9%削減	H27年度	384
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	「コンプレッサー自動制御システム」監視運転による効率管理・・・工場全体の約9%削減	H28年度	384
5	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	エネルギー (LPG) の非効率設備 (溶解保持炉) の壁面修理補修・・・18号炉補修済み	H27年度	118
6	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	エネルギー (LPG) の非効率設備 (溶解保持炉) の壁面修理補修・・・8号炉補修済み	H28年度	45
7	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	エネルギー (LPG) の非効率設備 (溶解保持炉) の更新・・・10号炉更新予定	H28年度	120
8	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	エネルギー (LPG) の非効率設備 (溶解保持炉) の更新・・・17号炉更新予定	H28年度	96
9	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	溶解保持炉材料投入口の改造 (放熱対策)・・・15号炉実施済み	H28年度	4
10	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	圧縮空気吐出量低下コンプレッサーの更新・・・1号機 75kw	H28年度	46
11	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	圧縮空気吐出量低下コンプレッサーの更新・・・5号機 75kw	H28年度	46
12	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	冷却水ポンプの更新・・・1号、2号	H28年度	5
13	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー・エネルギー監視制御システムの導入	H28年度	65
14	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	L4機械棟 (天上40w蛍光灯112灯) のLED化	H29年度	7
15						

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

平成20年10月に自社回路設計・施工による「コンプレッサー自動台数制御システム」の運転を開始以降、現在まで異常なく管理運用して工場使用電力の約9パーセントの削減効果を継続している。又、工場内にLPGを熱源としたアルミ溶解保持炉を15台保有しているが、老朽等により燃焼効率の悪い設備は更新或いは補修を順次行い「エネルギーの効率化」に努めている。平成26年度と27年度の電力使用量は殆ど同量だが、東京電力の換算係数が 0.386⇒0.495 に変更されたため、結果として28パーセント上昇している。